

硝子率が低く精麦品質が優れる早生・多収の裸麦品種「ハルヒメボシ」

硝子粒の発生割合が低く、精麦白度が高く、倒伏に強く、成熟期以降の中折れも発生しにくい、早生で多収の六条裸麦品種

研究開発の背景

- ・精麦用大麦・はだか麦における品質ランク区分の評価項目のうち、硝子率の上昇が生産地で問題となっている。
- ・そこで、安定生産が見込める生育特性を有し、硝子率が低く高品質な裸麦品種を育成する。

研究成果の内容



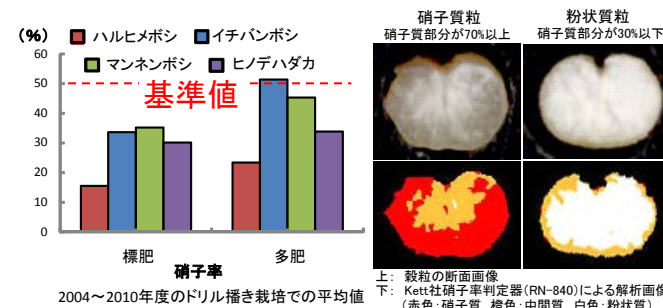
「ハルヒメボシ」は従来品種と比較すると

- ・出穂期と成熟期は「イチバンボシ」と同程度であり、「マンネンボシ」より2~3日早い**早生種**。
- ・**耐倒伏性**が強く、成熟期以降の稈の中折れが発生しにくい。
- ・穂数は少ないが、穂長が長く、**多収**である。
- ・原麦白度が高く、**硝子率が低い**。
- ・**精麦白度が非常に高く**、砕粒率が低く、精麦品質が優れる。
- ・同程度の**味噌加工適性**を有する。

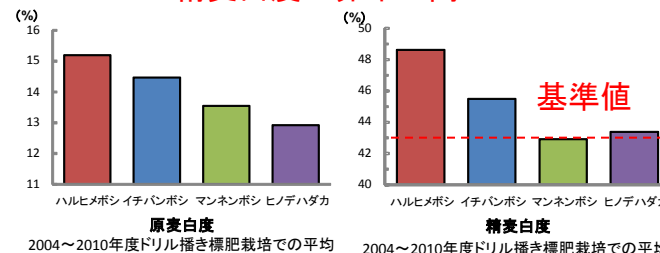
導入メリット

硝子率が低く、精麦白度が高い

標肥、多肥とも硝子率が低い



精麦白度が非常に高い



期待される効果

- ・硝子率が低く、精麦白度が高いため、品質ランク区分で高評価になりやすく、生産者の収益性向上が期待され、裸麦の作付拡大に繋がる。

導入をオススメする対象
硝子率の上昇が問題となっている、
温暖地の裸麦・大麦生産地